

## 平成19年度とりまとめ概要

### 1. リコール検討会開催目的

自動車のリコールについて多角的な視点から議論を行うことにより課題を明らかにし、必要に応じて制度や運用の改善を検討する。

### 2. リコール検討会検討経緯

検討課題を以下の4つに整理した。

- ①リコールに対する正しい理解の普及
- ②自動車の不具合に係るユーザーへの情報提供の充実と不具合発生からリコールに至る過程の透明性の確保
- ③リコールに至る自動車の不具合の発生原因の分析と削減方策
- ④使用過程の自動車の安全の確保及び環境保全のためにメーカーが担うべき役割の明確化

平成19年度は、主に①、②について検討した。未検討の課題については、平成20年度以降検討する。

### 3. 平成19年度とりまとめ概要

#### (1) リコールに対する正しい理解の普及

ユーザーのリコールに対する理解を深めるため、以下のような認識を周知していくこととする。

- ①自主的リコールを中心とするリコール制度は事故等の未然防止に効果的に機能していること。
- ②リコールの実施と並び、ユーザーの適切な使用、保守管理が重要であること。

#### (2) 自動車ユーザーへの情報提供の充実等

不具合に対するユーザーの関心を高め、不具合による事故等の発生をより確実に回避するために、以下の情報のユーザーへの提供を充実する。

##### ・事故・火災情報

自動車・後付装置の不具合が原因と疑われる事故や火災としてメーカーが国に報告した情報を公表する。

##### ・不具合情報

国の「自動車不具合情報ホットライン<sup>\*</sup>」に寄せられた情報について、検索機能

---

<sup>\*</sup> 「自動車不具合情報ホットライン」とは、自動車ユーザーから自動車の不具合情報を収集している窓口(フリーダイヤル、24時間受付電話、ホームページ書き込みの総称)である。寄せられた不具合情報は、一元的に管理され、不具合の多発性・原因等を分析し、リコールの適正な実施、リコール隠し等のメーカーの不正行為防止に役立てられている。また、不具合情報については、車名、通称名、型式等で検索可能な形で公開している。(ホームページ: <http://www.mlit.go.jp/jidosha/carinf/rci/index.html>)

を充実することや装置別等の統計分析結果を提供することを検討する。

- ・新車時にメーカーが提供する情報

不具合が発生した場合の対応方法等、取扱説明書等で新車時に提供されている情報について、より確実にユーザーに伝える方策等について検討する。

- ・使用過程でメーカーが提供する情報

長期使用されている自動車の注意事項等、メーカーが設計時には想定していなかった保守管理上の課題についてユーザーに情報提供する方策を検討する。